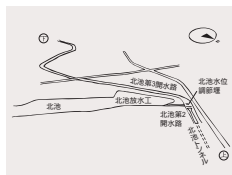


きたけ 北池開水路

幹線水路は共用区間から農業専用区間へとさしかかる。水路の断面も小さくなるが、水路は開水路、トンネル、サイホン、暗渠によって複雑な地形を縫うように先へ先へと延びて行く。

二期事業では、従前のうすいコンクリートライニング水路を詳細に調査して、必要な補修を施し、その上にブロックを張るコンクリートブロック上張り水路となった（工事の記録参照）



みなみさわ 南沢開水路（半田揚水機場）



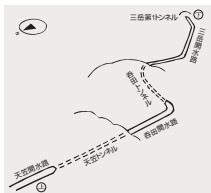
周辺はほとんどが耕地で、短いトンネルで耕地の下を潜り抜けるケースも目につき、上流とはだいぶ違った姿で知多半島の先端に向かって進んでいく。

二期事業では、幹線水路はコンクリートブロック上張り水路で整備され、同時に周辺の耕地が整備されるとともに、支線水路についても施設の更新が行われている。この地点では、半田揚水機場（写真左下の円筒は吐水槽）が新しく生まれ変わった。



のんだ 呑田開水路

常清市櫛水付近。丘陵地に囲まれた典型的な知多半島の水田風景である。その中を、天笠トンネル、呑田開水路、呑田トンネル、三岳開水路、呑田トンネル、三岳第1トンネルと愛知用水が水を運んでいく。



しょうまいけ 菖蒲池開水路

この地域は、常清市郊外の水田地帯で、“はねつるべ”によるかんがいが多くみられた地域であった。



さかもり 坂森開水路 (旧大谷浄水場付近)

南知多一帯に待望の水通用水を供給するため大谷浄水場が建設されたが、現在は知多浄水場に統合された。

